【補足】記号について

Ｎ……ナレーション

Ｍ……その人物のモノローグ（心の声）

セリフの中にある括弧書き……心情や状況についての補足

登場人物と設定

* ケント　小３男。おとなしく優しい性格であり、争いごとは好きではない。休み時間などには、静かに本を読んだり、勉強したりするのが好きである。授業中は、席が近いリョウスケ、ワカナと一緒にグループ活動をすることが多く、傍からはよい関係であるように思われている。
* リョウスケ　小３男。クラスで目立った存在という訳ではないが、口がたち調子がいい。本人にはケントをいじめているつもりはなく、ふざけて遊んでいるだけという意識。勉強はそれほど得意ではなく、普段のグループ活動ではケントに助けられることが多い。
* ワカナ　小３女。クラスみんなの前で目立とうとするようなことはないが、少人数のグループではよく話したり、自己主張したりすることができる。ケントとのかかわり方については、リョウスケと同じような意識でいる。

　１コマ目　あったはずの筆箱がなくなり、戸惑うケント。

ケント あれー、ない。ない。ないなあ……。  
僕の筆箱が、ない……。おかしいなあ。（筆箱を探しながらつぶやいている。不安で、心の声をつい口に出してしまう）

Ｎ ある日の教室でのこと。  
ケントが、自分の筆箱を探しています。  
たしか、机の上に置いたはずだったのに……。

　２コマ目　筆箱が見つかり一安心。しかし、なぜそこにあるのかケントは困惑する。

ケント ああ、あった、あった。よかった……。（いったん安心）

Ｍケント んー、でも……。なんでこんなところに  
あるんだろう……。（不思議というよりは、困惑している）

Ｎ ケントの筆箱は、すぐ近くにありました。  
すると、その時……。

　３コマ目　ゲームのつもりのリョウスケとワカナが登場。

リョウスケ イエーイ！　さすがケント！　よく見つけたね！

ワカナ すごいじゃーん。すーぐ見つかっちゃった！（ドッキリを成功させたときに仕掛け人が明るく登場するようなイメージ）

リョウスケ・ワカナ　あははははっ！（いじめをしているつもりはないが、おろおろするケ  
　　　ントを馬鹿にしたい感じが全くないとも言えない）

Ｎ ケントの後ろから、リョウスケとワカナが話しかけてきました。

Ｍケント あ、ああ、なんだ。ふたりが隠したのか……。（理由がわかった安心感と、おふざけに対するやれやれ感）

ケント う、うん。簡単に見つかったよー。  
ゲ、ゲームみたいだね……。あは、あははは……。（事を荒立てたくなく、また馬鹿にされていると認識したくもなく、ユーモアでやりすごそうとする）

　４コマ目　筆箱かくしが続き、ケントのストレスはたまっていく。

Ｎ それからというものの、ケントの筆箱を探す「ゲーム」は、次の日も、そのまた次の日も、続けられました。

ケント あれ、またか……。  
ああ、今日はこんなところに……。  
ええっ、なんであんなところに……。（各セリフは、イラストにある３つの異なる場面に対応）

Ｎ そんなことが続いたある日、ケントは、リョウスケと  
ワカナに話をしました。

　５コマ目　意を決して「やめて」と言うケントと、訴えを無効化するふたり。

ケント あ、あのさ……。これ、そろそろ、やめない？  
探すの、めんどうだしさ、は、はは……。（ストレスはかなりたまっており、意を決し勇気を出して訴えている。しかし、やはり事を荒立てたくはないため、微笑しながらひかえめに訴える）

ワカナ えー、なんでー！　楽しいじゃーん！  
がんばって隠しても、ケントすぐ見つけちゃうし、  
すごいよー。

リョウスケ そうだよ！　あそび、あそび！ 　もっと一緒に遊んでよー！  
ケントも「ゲームみたい」って言ってたじゃん！  
（意識の上では、このままケントをいじめてやろうという強い思いはない。必死にケントを説得している訳でもない。基本的には深く考えていない。ただし、やはり、おろおろするケントを馬鹿にする思いが全くない訳ではない）

　６コマ目　訴えを無効化され、困るケント。

Ｍケント え、た、たしかに「ゲームみたい」って言ったけど……。  
ふたりとも楽しんでるし、まあ……ちょっと我慢してればいいのかなあ……。どうせ探せばすぐ見つかるし……。うーん、でも、……やっぱりやめてほしいかも……。ど、どうしたらいいんだろう。（一度、勇気を出して訴えた後なので、さらに強く言えない所もある）

　　　　　　　　　　　　　　　終